

報告

平成 20 年度 関東支部会報告

根本しおみ（川口市立科学館）

平成 20 年 5 月 17 日(土)に関東支部会がおこなわれました。今回は、平塚市博物館（神奈川県平塚市）を会場とし、太陽をテーマにした天文教育を中心におこないました。当日は、天候も良く、会員内・外を含め 41 名の参加者がありました。今回講演をしていただいた国立天文台ひので科学プロジェクト助教の原弘久先生は、平塚市出身の方で、小さい頃平塚市博物館に通い、黒点の観察などをしていたそうです。自館の卒業生が成長して研究者になる、なんて、科学館・博物館の理想ですね。このほか、太陽に関する発表が 6 件、その他の研究報告 2 件でした。概要は、以下のとおりです。

■発表の概要

1 講演会

「ひので衛星と平塚市博物館の思い出」

国立天文台ひので科学プロジェクト

助教 原 弘久

「ひので」が解き明かす太陽の姿と今後の太陽研究の展望についての講演。また、子供の頃、平塚市博物館ですごした思い出もお話していただいた。



図 1 原氏(国立天文台)の講演

2 太陽に関する発表

(1)「太陽関係の展示の報告」

平塚市博物館 鴈 宏道

PAONET のひのでデータ活用 WG でおこなった、全国の太陽関係の展示についての調査結果を発表した。

(2)「ひのでDVDの紹介」

国立天文台 下井倉ともみ

ひのでデータ活用WGでは、太陽観測衛星「ひので」によって得られた非常に高画質の観測データを用いて、ひのでと太陽の姿を紹介するDVDを制作し、教育普及関係各所への配布をおこなった。このDVDの内容と、活用例の紹介をした。

(3)「世界天文年について」

立教大学 矢治 健太郎

2009年は世界天文年である。今、日本国内の天文コミュニティーは世界天文年を盛り上げるべく、様々な企画を進めている。各企画の紹介と、当会で進行中の企画についても紹介した。

(4)「2009 年の日食の話題について」

世田谷区立砧南中学校 大越 治

2009年の日食（1月26日：金環食、7月22日：皆既食）の概要と楽しみ方を紹介した。

(5)「太陽観測衛星「ひので」画像を活用した学校教材」

立教大学 矢治 健太郎

ひのでの観測画像を用いた教材開発をおこない、その教材を実際に3カ所の中

学・高校で実践した。その実践内容と授業後におこなったアンケート結果の報告をした。

(6)「太陽の自転周期を求める

グループ活動」

慶應義塾高校 松本 直記

選択科目において太陽観測をおこない、黒点の位置の移動から太陽の自転周期を求めた。その後、SOHOデータベース、ハワイデータベースを利用し、長期間の黒点変動解析をグループワークとしておこなった。グループ活動の様相を紹介した。

3 その他

(1)「東海大学天文学宇宙研究室の研究室紹介の試み」

東海大学連合大学院 大宮 正士

天文・宇宙の観測系研究室である東海大学総合教育センターの比田井研と理学部物理学科の西嶋・河内・櫛田研が、2007年に平塚市博物館でおこなった研究室紹介の活動を中心に、東海大学天文学宇宙研究室の最近の取り組みについて発表した。

(2)「大学天文部の近況—天文冬の陣 2007のアンケート結果より」

山形大学 鈴木 隆之

2007年12月に広島県で大学天文サークルの全国交流会「第19回天文冬の陣」がおこなわれた。その際に、「学生による天文活動の現状と天文を通じた交流活動に関するアンケート」を実施した。その回答結果の考察と、天文教育における学生の立場について発表した。

4 平塚市博物館 プラネタリウム見学

デジタルプラネタリウムを使った番組のデモを見せてもらった。機械式プラネタリウムにはできない、可視光以外で見た宇宙の姿や、恒星の年周視差を拡大して投影したりできるので、これからの天文教育にどのようにデジタルプラネタリウムを利用していくか、参考になった。

今回は、会員外の参加者（原先生の講演を聴きに来た、平塚市博物館の会員の方）が半分を占めた。平塚市博物館の歴史と、活発な活動がしのばれて、頭が下がる思いだった。



図2 会場の様子